

「阪神港」の貿易

平成 27 年 3 月 18 日

大阪税関調査統計課

神戸税関調査統計課

- ・2014 年の阪神港の貿易額は、輸入は 10 兆 8,999 億円で過去最高。原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスが大きく伸びる。
- ・輸出は 9 兆 4,017 億円で、リーマン・ショック前の水準近くまで回復。プラスチック、科学光学機器はリーマン・ショック超えを果たす。
- ・差引額は -1 兆 4,981 億円で輸入超過。
- ・対アジア貿易は全国(輸出:54.1%、輸入:45.0%)に比べ、阪神港(輸出:65.6%、輸入:60.4%)は高い構成比。

2007 年(平成 19 年)12 月 1 日港則法施行令改正により、大阪港(堺区を含む)、神戸港、尼崎西宮芦屋港の 3 港が一開港化され「阪神港」が誕生しました。

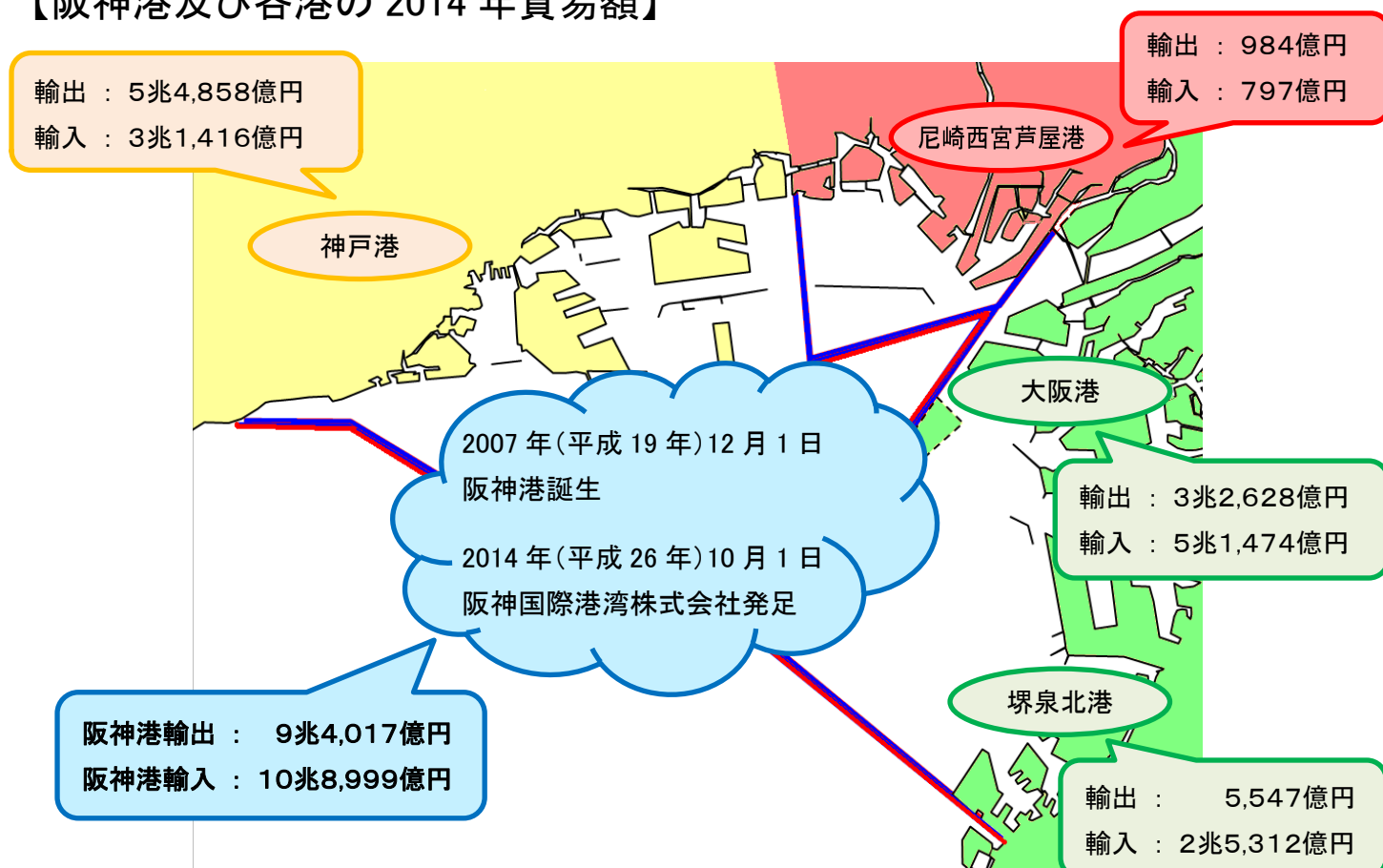
この阪神港の誕生から 5 年目を迎えた 2012 年(平成 24 年)2 月、神戸税関が『「阪神港の貿易」について』と題する特集を発表しましたが、その後、民の視点による効率的な港湾運営を推進することにより、阪神港の国際競争力の強化を図ることを目的として 2014 年(平成 26 年)10 月 1 日に神戸港と大阪港の両港の埠頭会社が統合され「阪神国際港湾株式会社」が発足しました。

そこで、今回は改めて「阪神港」に係る輸出入の貿易額等の動向(とりわけ大阪港と神戸港に着目し、リーマン・ショック前の 2007 年から)について、それぞれを管轄する大阪税関と神戸税関との共同で特集として取り上げることとしました。

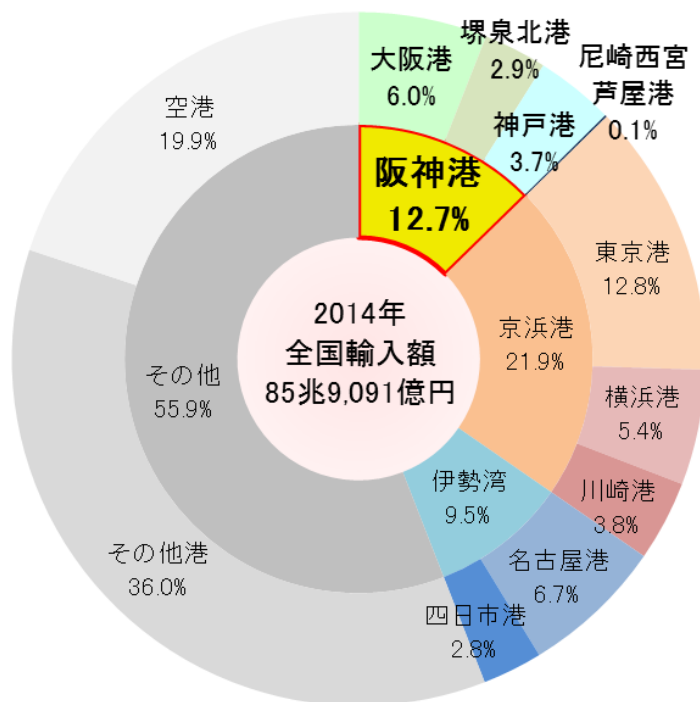
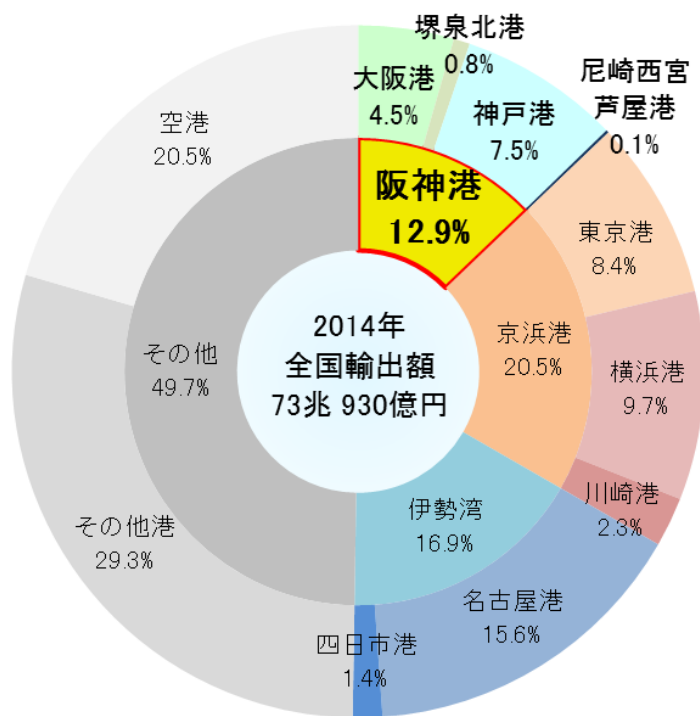
※ 本特集の「阪神港」は、大阪、堺、神戸、尼崎の通関官署ベースで統計計上された数値を使用しています。

※ 「近畿圏」は、大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の 2 府 4 県を指します。

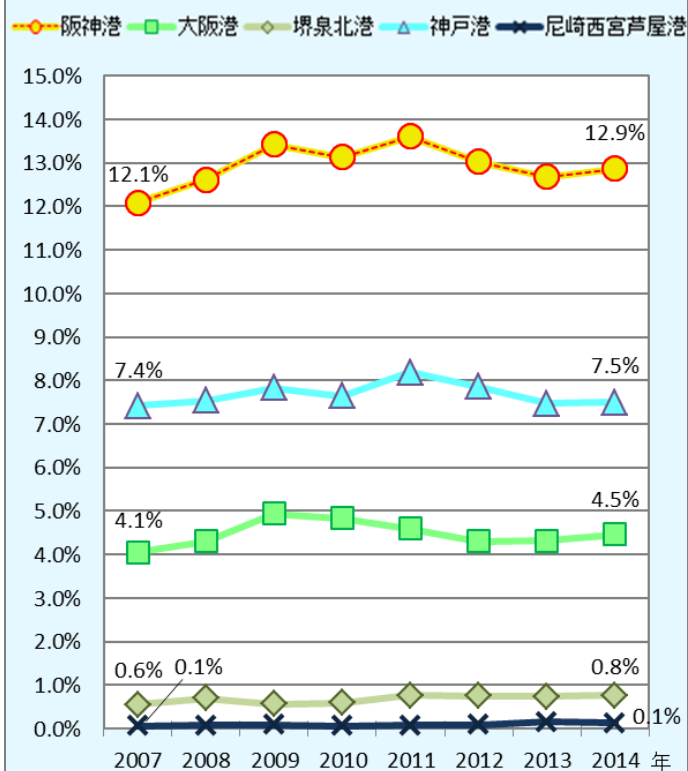
【阪神港及び各港の 2014 年貿易額】



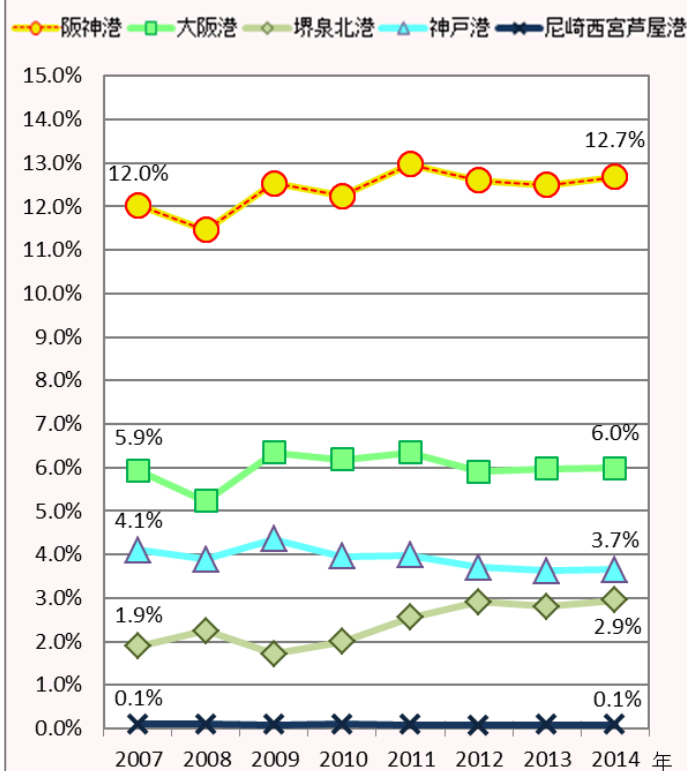
【阪神港及び各港の構成比(対全国)】



対全国 構成比推移【輸出】



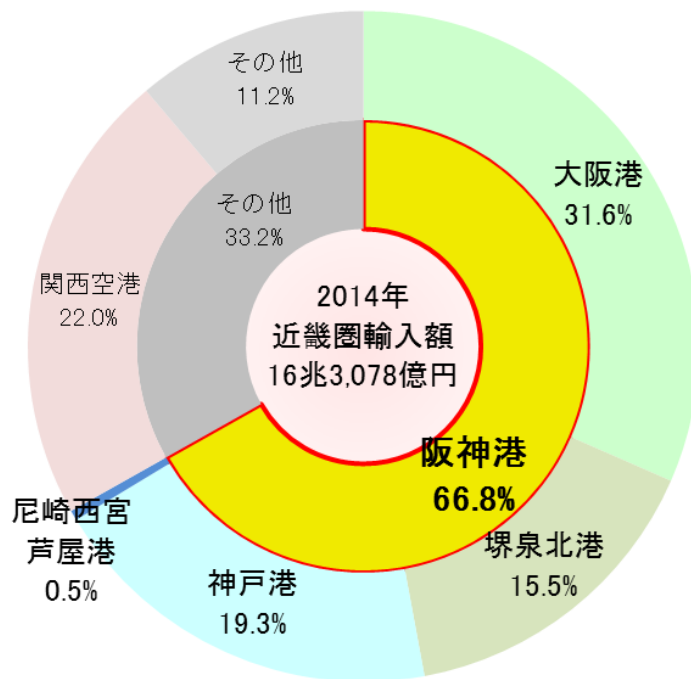
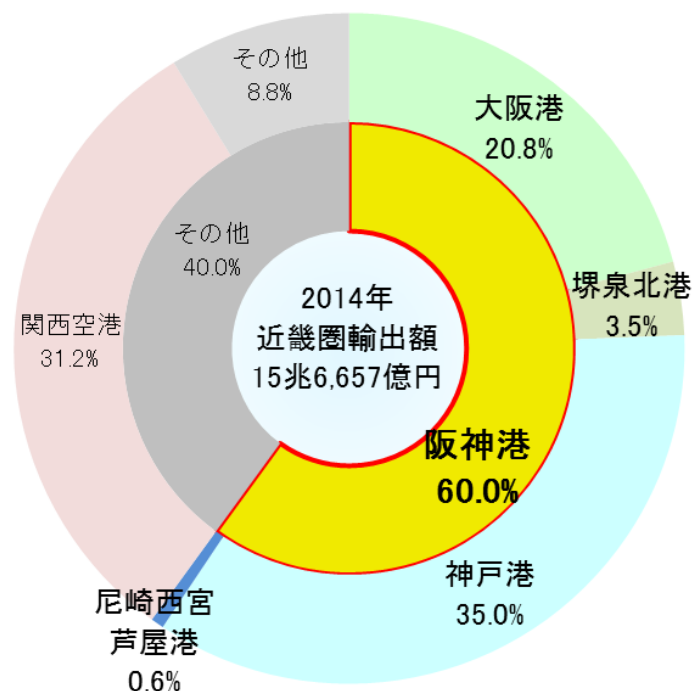
対全国 構成比推移【輸入】



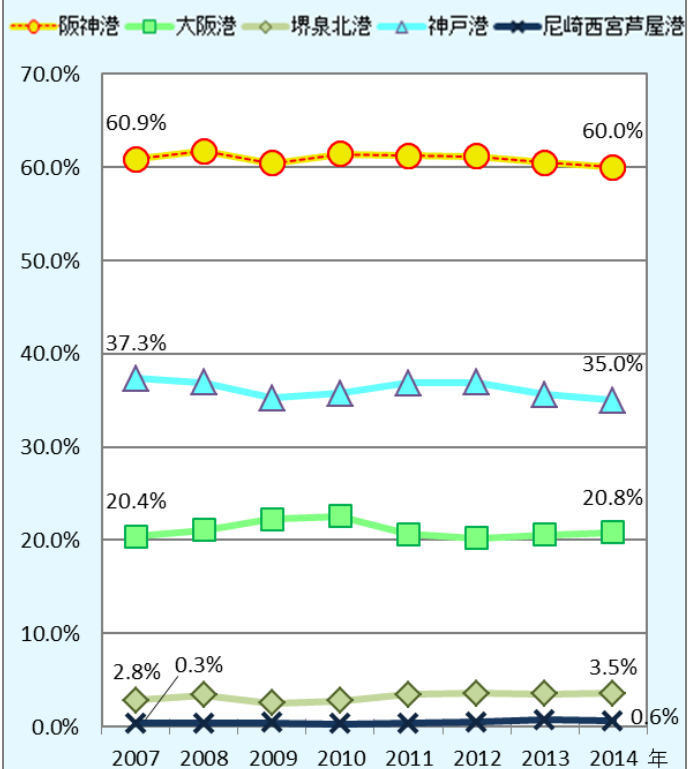
全国における阪神港の構成比をみると、2014 年は輸出で 12.9%、輸入で 12.7%となり、阪神港が誕生した 2007 年と比べて、輸出は 0.8 ポイント、輸入は 0.7 ポイント拡大しました。

阪神港の各港についてみると、輸出は神戸港の構成比が高く、輸入は大阪港の構成比が高くなっており、2014 年の対全国構成比は、輸出で神戸港 7.5%、大阪港 4.5%、堺泉北港 0.8%、尼崎西宮芦屋港 0.1%の順、輸入では大阪港 6.0%、神戸港 3.7%、堺泉北港 2.9%、尼崎西宮芦屋港 0.1%の順となっています。

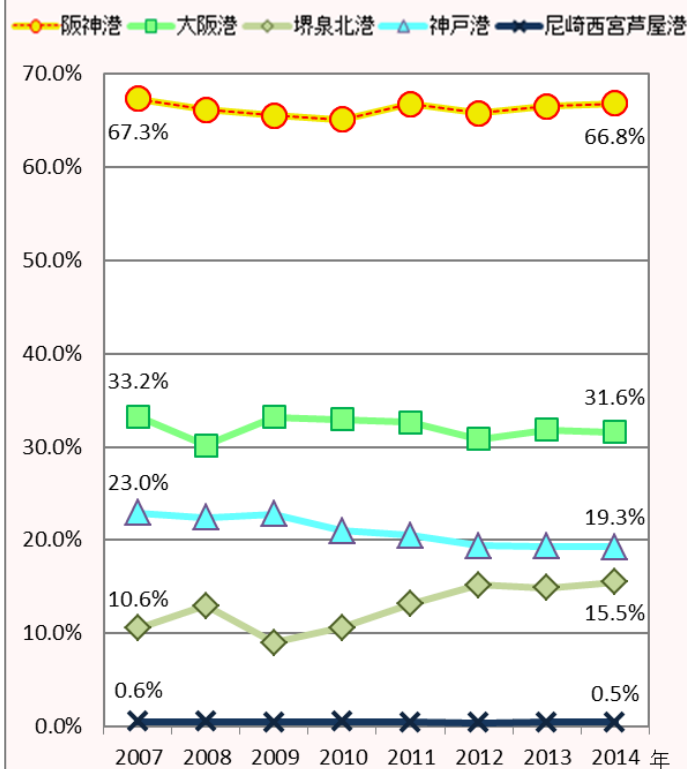
【阪神港及び各港の構成比(対近畿圏)】



対近畿圏 構成比推移【輸出】



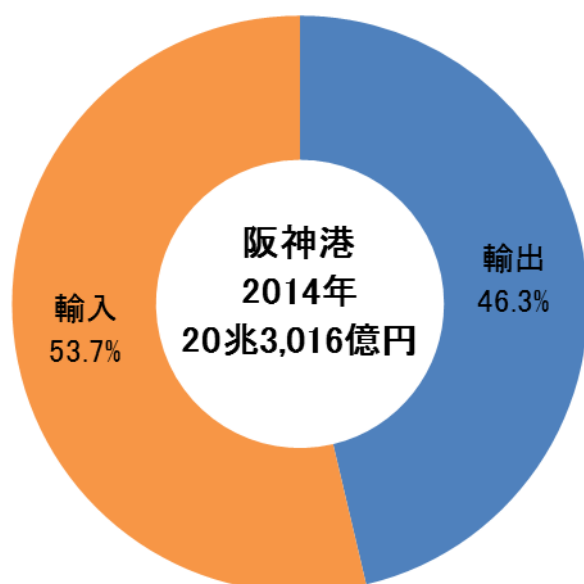
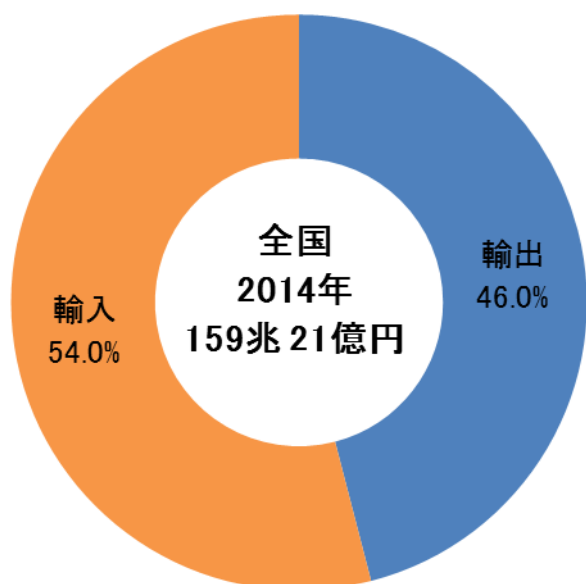
対近畿圏 構成比推移【輸入】



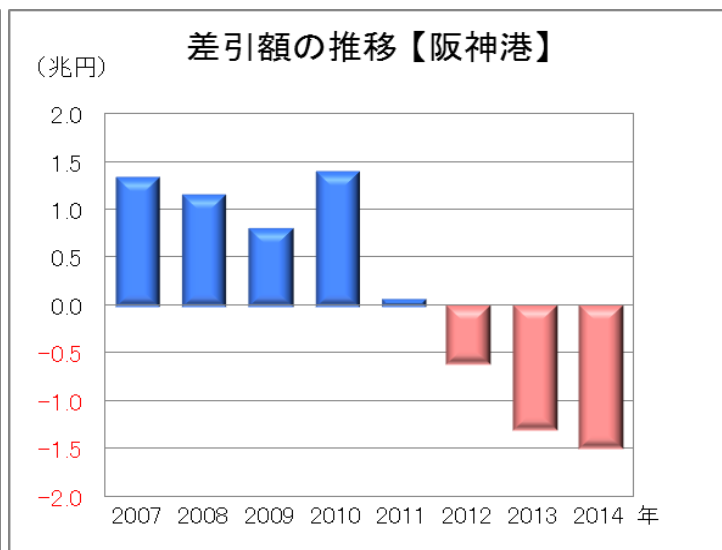
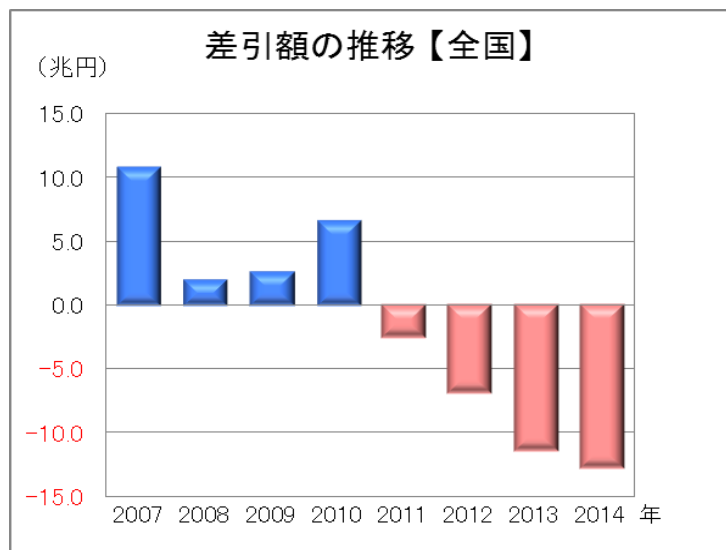
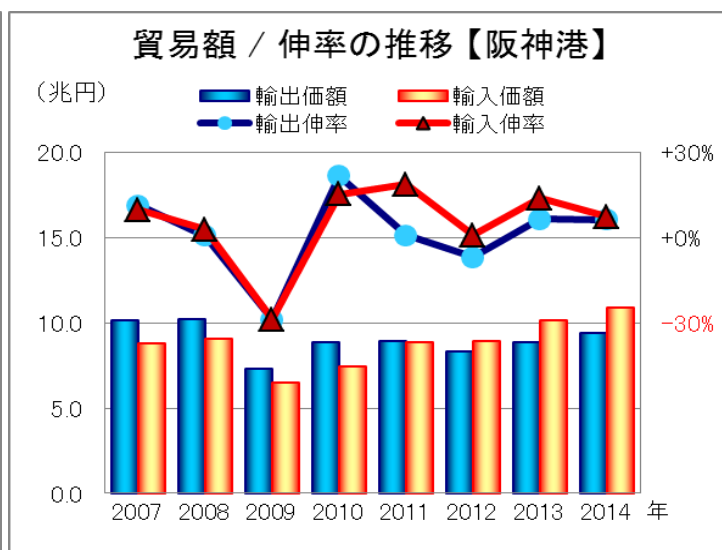
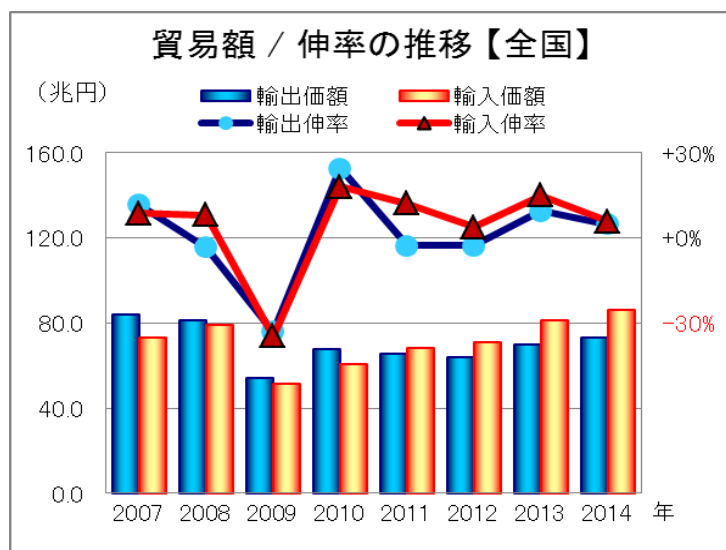
近畿圏における阪神港の構成比をみると、輸入のほうが輸出よりも高い傾向にあり、2014 年は輸出で 60.0%、輸入で 66.8%を占めています。

阪神港の各港についてみると、輸出は神戸港の構成比が高く、輸入は大阪港の構成比が高くなっており、2014 年の対近畿圏構成比は、輸出で神戸港 35.0%、大阪港 20.8%、堺泉北港 3.5%、尼崎西宮芦屋港 0.6%の順、輸入では大阪港 31.6%、神戸港 19.3%、堺泉北港 15.5%、尼崎西宮芦屋港 0.5%の順となっています。

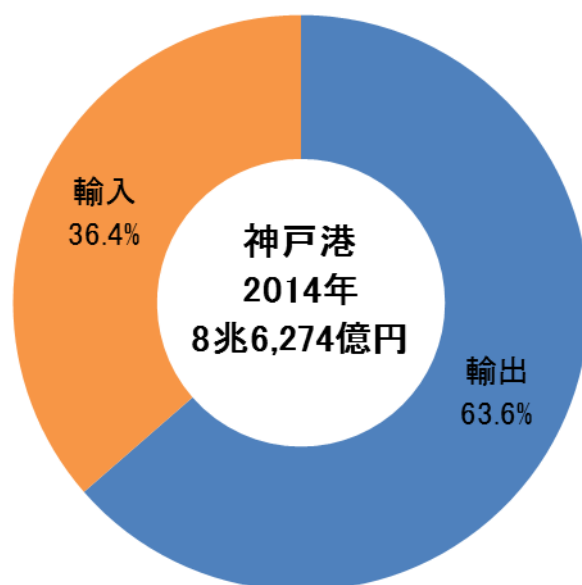
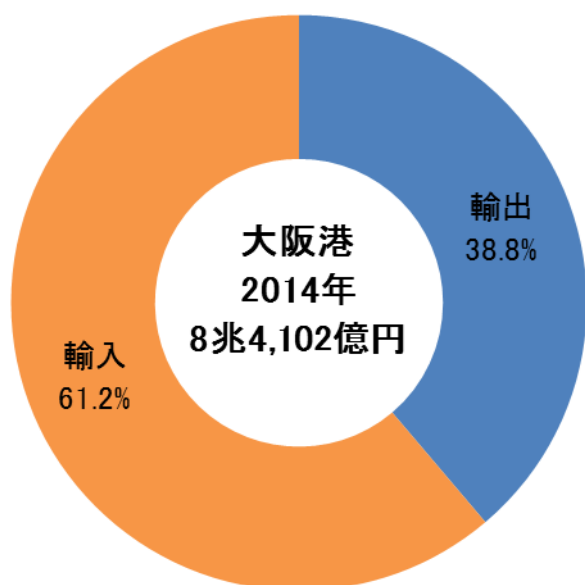
【輸出入構成比と年推移】



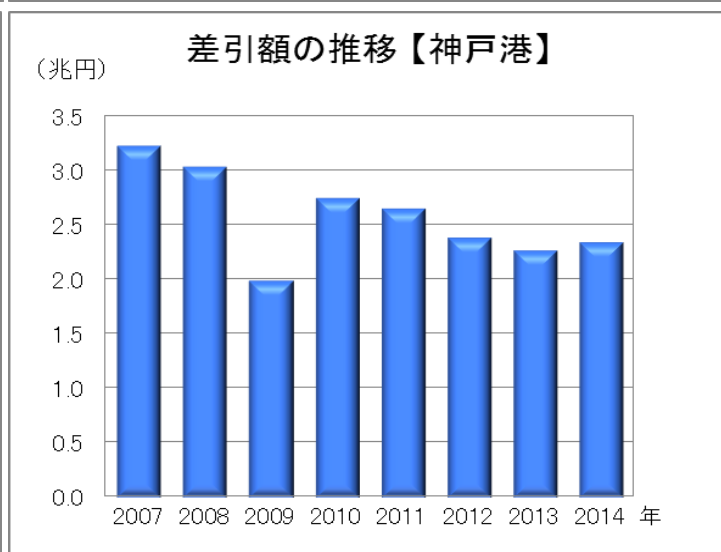
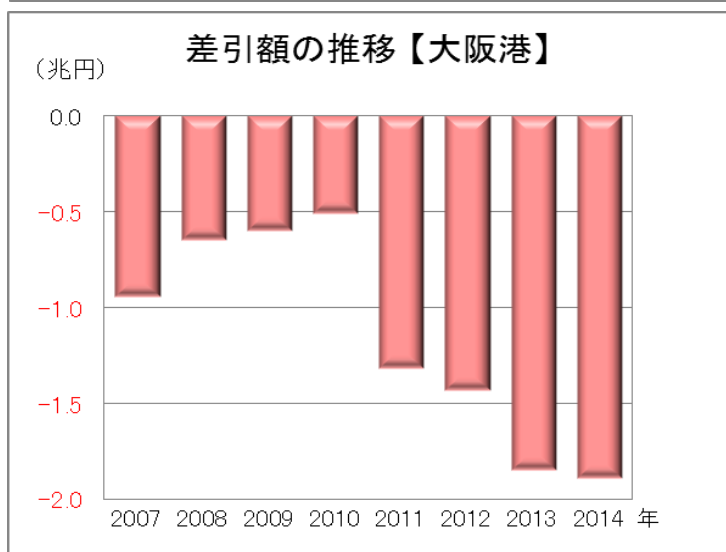
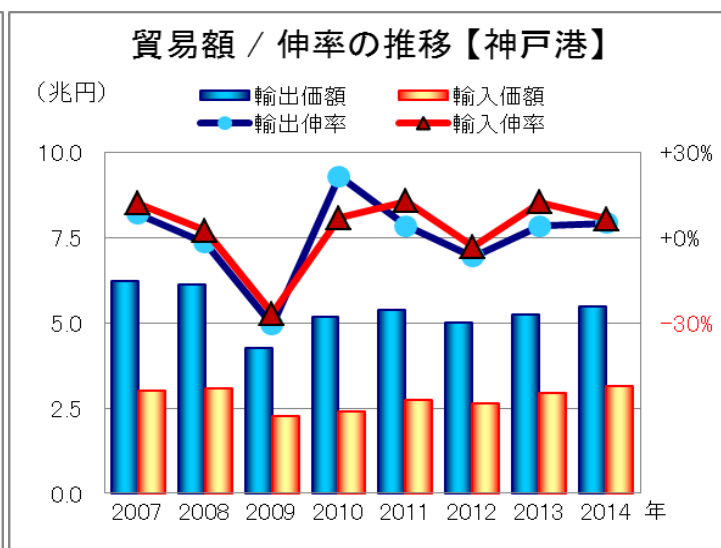
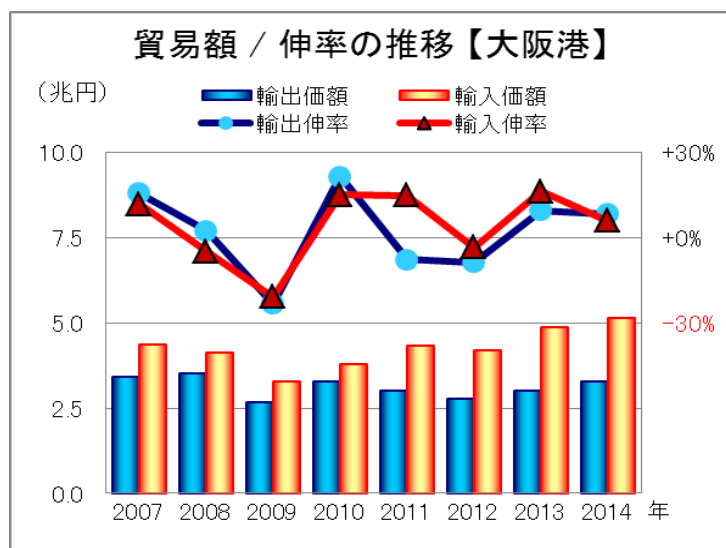
2014年の全国の貿易額は、輸出が73兆930億円、輸入が85兆9,091億円で、差引額は-12兆8,161億円で輸入超過となりました。また、阪神港の貿易額は、輸出が9兆4,017億円、輸入が10兆8,999億円で、差引額は-1兆4,981億円で輸入超過となりました。



年別推移をみると、全国の輸出から輸入を差引いた額は2010年まで輸出超過が続いていましたが、東日本大震災後に原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスの輸入が増加したことにより輸入超過に転じ、阪神港も1年遅れて2012年に輸入超過となりました。



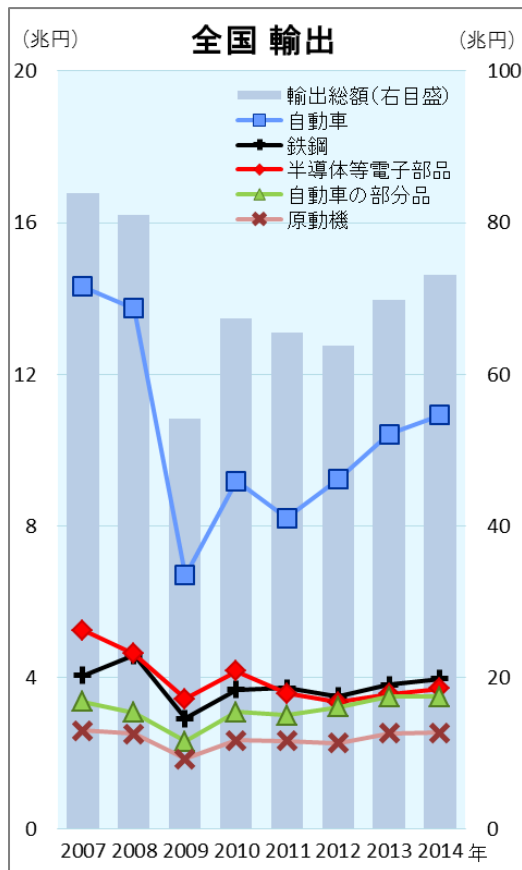
2014年の大阪港の貿易額は、輸出が3兆2,628億円、輸入が5兆1,474億円で、差引額は-1兆8,846億円で輸入超過となりました。また、神戸港の貿易額は、輸出が5兆4,858億円、輸入が3兆1,416億円で、差引額は2兆3,442億円で輸出超過となりました。



2007年以降の貿易額の推移を大阪港と神戸港で比べてみると、大阪港は輸入が多い港（輸入超過）で、神戸港は輸出が多い港（輸出超過）であることが分かります。

【全国の上位輸出品目】

(単位: 億円)



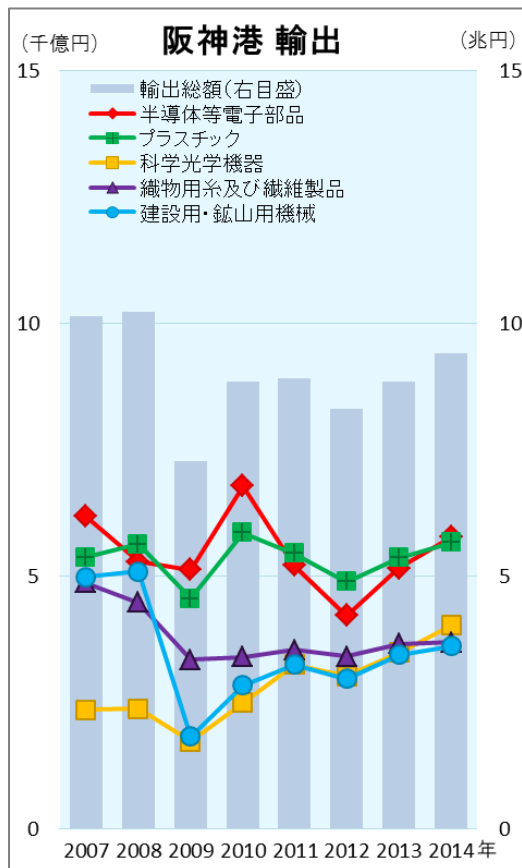
全国輸出		2014年		
		金額	前年比	構成比
総額		730,930	104.8%	100.0%
1	自動車	109,194	104.9%	14.9%
2	鉄鋼	39,584	104.4%	5.4%
3	半導体等電子部品	36,908	103.9%	5.0%
4	自動車の部分品	34,750	100.0%	4.8%
5	原動機	25,397	100.8%	3.5%

全国の上位輸出品目をみると、自動車が2008年以前の水準まで回復していないものの、他を大きく引き離してトップで推移しています。また、鉄鋼が2011年に半導体等電子部品を抜き第2位となっています。

2014年の構成比では、自動車 14.9% (主に乗用車(新車)など)、鉄鋼 5.4% (主にフラットロール製品、鋼管など)、半導体等電子部品 5.0% (主にメモリーなど IC 関連)、自動車の部分品 4.8% (主にギヤボックスなど)、原動機 3.5% (主にエンジンなど内燃機関、ガスタービンの部分品など) の順となっています。

【阪神港の上位輸出品目】

(単位: 億円)



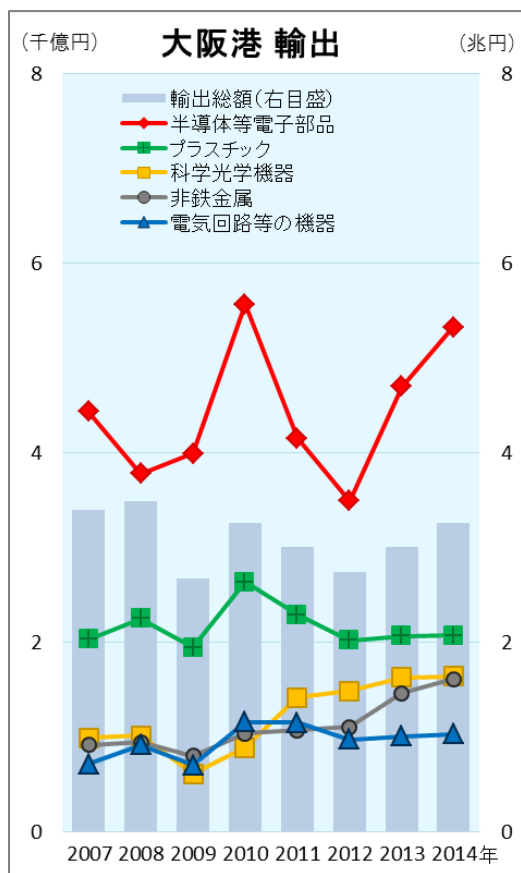
阪神港輸出		2014年			
		金額	前年比	構成比	全国比
総額		94,017	106.2%	100.0%	12.9%
1	半導体等電子部品	5,775	112.1%	6.1%	15.6%
2	プラスチック	5,656	105.5%	6.0%	23.4%
3	科学光学機器	4,021	115.5%	4.3%	16.5%
4	織物用糸及び繊維製品	3,692	101.1%	3.9%	53.1%
5	建設用・鉱山用機械	3,613	105.2%	3.8%	36.5%

阪神港の上位輸出品目をみると、半導体等電子部品とプラスチックの2品目が他を引き離して推移しています。また、ここ数年は科学光学機器が伸びています。特に、プラスチック、科学光学機器については、2008年の輸出額がそれぞれ5,626億円、2,370億円であった一方、2014年はそれぞれ5,656億円、4,021億円になっており、リーマン・ショック前の水準を超える状況となっています。

2014年の構成比では、半導体等電子部品 6.1% (主にメモリーなど IC 関連)、プラスチック 6.0% (主にプラスチックシート、アクリルポリマーなど)、科学光学機器 4.3% (主に液晶デバイス、偏光材料製シートなど)、織物用糸及び繊維製品 3.9% (主に合成繊維織物、プラスチックを染み込ませた織物など)、建設用・鉱山用機械 3.8% (主にエキスカベーター、ブルドーザーなど) の順となっています。

【大阪港の上位輸出品目】

(単位: 億円)



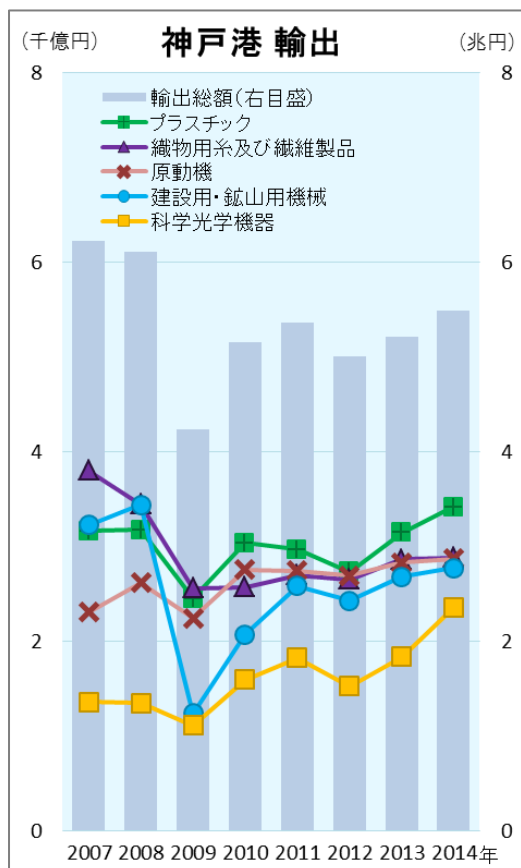
大阪港輸出		2014年			
		金額	前年比	構成比	全国比
総額		32,628	108.4%	100.0%	4.5%
1	半導体等電子部品	5,327	113.4%	16.3%	14.4%
2	プラスチック	2,070	100.2%	6.3%	8.6%
3	科学光学機器	1,642	100.8%	5.0%	6.7%
4	非鉄金属	1,614	110.2%	4.9%	11.1%
5	電気回路等の機器	1,032	102.3%	3.2%	5.6%

大阪港の上位輸出品目をみると、半導体等電子部品が他を大きく引き離してトップで推移しています。また、プラスチックはほぼ横ばいながらも第2位で推移しています。

2014年の構成比では、半導体等電子部品 16.3% (主にメモリーなど IC 関連)、プラスチック 6.3% (主にプラスチックシートなど)、科学光学機器 5.0% (主に液晶デバイス、偏光材料製シートなど)、非鉄金属 4.9% (主に銅及び同合金など)、電気回路等の機器 3.2% (主に継電器、スイッチなど) の順となっています。

【神戸港の上位輸出品目】

(単位: 億円)



神戸港輸出		2014年			
		金額	前年比	構成比	全国比
総額		54,858	105.2%	100.0%	7.5%
1	プラスチック	3,417	108.6%	6.2%	14.2%
2	織物用糸及び繊維製品	2,884	100.7%	5.3%	41.5%
3	原動機	2,873	101.5%	5.2%	11.3%
4	建設用・鉱山用機械	2,773	103.4%	5.1%	28.0%
5	科学光学機器	2,356	128.2%	4.3%	9.7%

神戸港の上位輸出品目をみると、プラスチックが 2010 年以降トップで推移しています。また、織物用糸及び繊維製品と原動機がここ数年は僅差で推移しています。

2014年の構成比では、プラスチック 6.2% (主にプラスチックシート、アクリルポリマーなど)、織物用糸及び繊維製品 5.3% (主に合成繊維織物、プラスチックを染み込ませた織物など)、原動機 5.2% (主にエンジンなど内燃機関、ガスタービンの部分品など)、建設用・鉱山用機械 5.1% (主にエキスカベーター、ブルドーザーなど)、科学光学機器 4.3% (主に液晶デバイス、偏光材料製シートなど) の順となっています。